八張弓
重藤
弓本地
弦衣
矢筒
箙

五段田出完

八張弓

九巳









八張弓之巻

抑一名弓手術て両頭陰陽弓と定し
陰陽弓又四象弓と定し四象弓又八張
弓と生し易にも太極両儀と定両儀
四象を定四象八卦と生し其外大道哉
河の上り八張弓の図にも又陰陽弓

しかれハ反と云事見濁點ハ巻于反
是も形をもつて名付く彼ハ程を求く
名付く様ハ子細まし
笙之の太平楽ハ武の藤の于之張ニ
当するハ武の反の文として見え候
つらわんとも之前此反ハ亦書ニ有
略の反と知之し武もの摘反未練
摘批の反筆之摘反ハ十本にわり是候

違菱とも又ハ扇の菱とも云又摺縞上下ハ
向菱と違也後乃図ハ其の菱共
八の藤ハ是も跡も式の菱此数や
式乃菱と云くハ華ハ何の事小言
花菱と違菱ハ別て式の菱と云之
梛藤とハ違之巻と云之
式之藤之図

筈巻上二

白月輪巻

白

矢摺藤

鏑扣式幕月抱

握九曜巻七曜巻

白

筈巻下

違藤

鏑藤

切詰藤

第二の蛇形弓ハ白木弓之的弓とハ
化生のものなとハ射へき弓なり





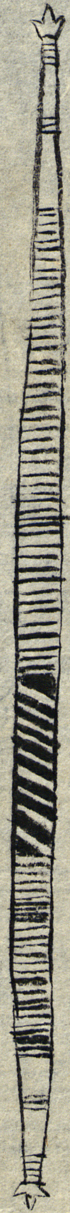
第三の羅漢弓ハ白木弓ふして茂弦
法ひらき之常ふ挑迎て座より坐
のこれを射る文弓なり


七曜巻

第四の相縁弓ハ茂の数七ツ二て遍なり
吹きよ茂とは花之草鹿圓物を射る弓之
又座の巻目を射る大法之


九曜巻

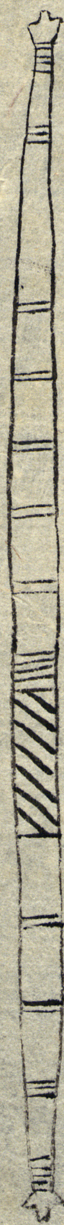
筈之乃己之弓ハ重籐の弓之握より上
籐数二十六握より下籐数廿八之是ハ籐
大將征矢ヲ添也又さ弓也塗籠ハ
して草薄大事の用弓ニ利



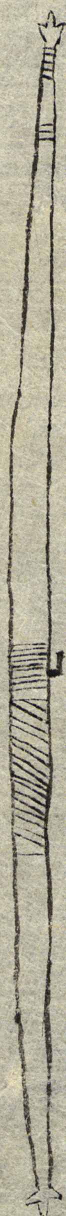
七曜巻 九曜巻

筈之の淫湯弓ハ二所籐弓之婚礼女房
迎年への時又産屋の墓目武流端
鳥筈ハ用

七曜巻



第七乃福禄弓ハ釻のつる弓之戦場ニ携へし 又釻の事 別巻ニ有へし

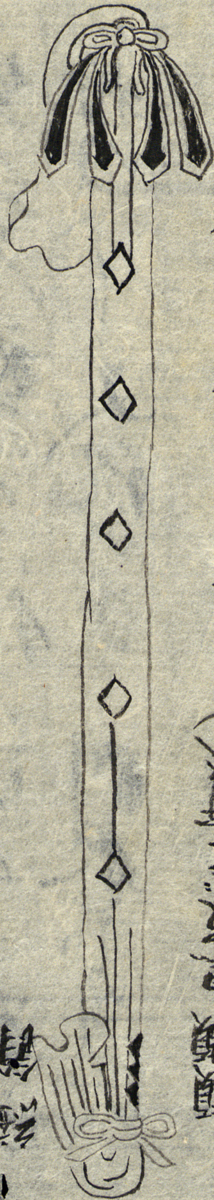


九曜巻



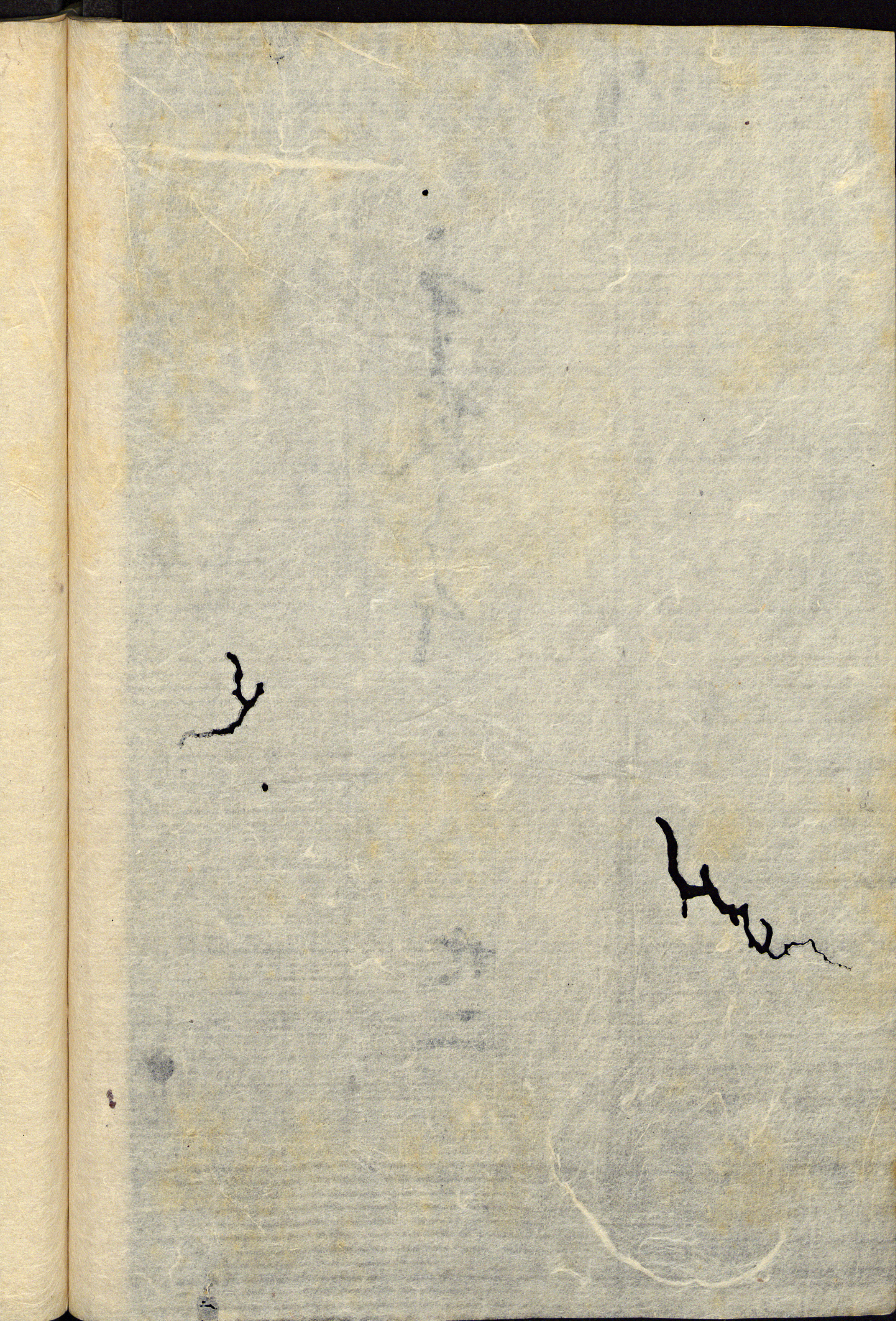
第八乃世平弓ハ緘ニ余る弓なり 神事又ハ上洛の時持へし 我家の紋を大葉ニ白く付へし 又ハこれハきさるへし 地ハ布之緘籠弓ハ黒塗へし

て霞のうち雷上動のうちと云文繪ハ
太平うちとと文ハ大節巻小節巻うちと云
秘傳有之く



平安してまて

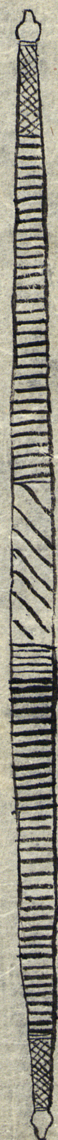
之



重藤之巻

夫弓式の重藤ハ八張弓之内ニ
廿六の歳廿八の歳と遣する日足弓
の事也是より歳と略推て足く
多し後生降伏の為なれハ足歳
さて七十文殊菩歳慈歳廿七之

藤弓之圖

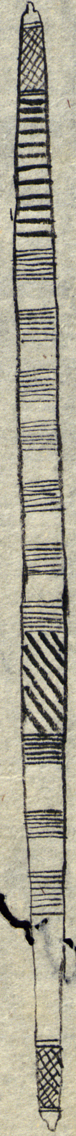





同重籐

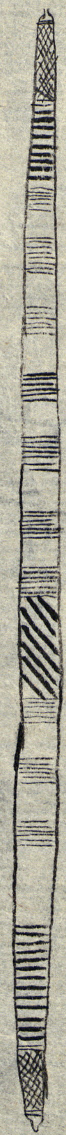

本重籐


末重籐


鏑重籐


吹寄重籐


箭摺重籐

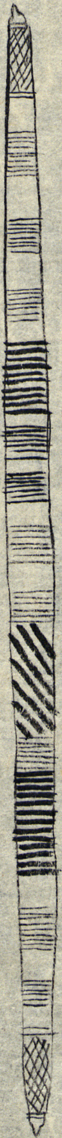

同重藤


肩重藤


節篭重藤


段重藤

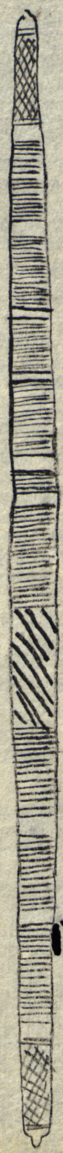

匂重藤


中重藤


千且二重藤


引両重藤


鶴千重藤



白重籐

弓本地

廿七

一弓之本地無量壽佛也是能知慈悲
心爲先ト無用之者ノ命莫斷朝敵予爲
佛法王法是弓矢之威光弥增長天
下可施其名武者宝何物知之哉

一弓表男女則者絃者表男弓表女也
口傳在之

一弓者日月形也引時如日圓成不引
時如半月兩頭之蛇形ニテ尾頭在口然弓

本末雖分能々可有傳本末不知
云叓寳成就

一吏弓者天地之從勢出來作者不
知雖然皇帝是知從行給以來
以弓綱御代給賣叓如是也

一於日本放弓叓東夷爲于日本
武尊下向給梟有山里宿給内椎
物音在是主尋給翁云弓音物
也物蓋樣成物引延成弓自其
以来世弓出来武士寳成此宿主

翁則諏訪大明神也就之此時弓
甲州賀々美之大富納也是當家
傳天下之師範成也無知人云事
雖多畧之能々可有口傳者也

一弓者棒上者地三十六禽也下者天
之廿八宿表也然本末不知云事實
也无口傳而是知事不可在之者也
但両頭之為鞄間何方頭云可何方
尾歟以口傳可知也末弭本也本
弭又末弭〻成事能〻可口傳

有之可秘々々

小笠原大膳大夫 長時

同 右近大夫 貞慶

小[illegible]忠 貞成

鈴木三右衛門尉 正成

右其雖為当家訓之門秘

更任汝執心懇志令相伝畢

深畢不可有他見者也

注 彼之書 北八



弦袋之事

一　吹寄藤には　七宝門出し

一　菫こには　青糸也

一　あ梅まこには　老さう

一　塗籠藤之には　青地之錦

一　矢摺かくには　緋子

一　大節段まきには　茶之

一　赤う漆まには　白糸也

一　白木まには　金襴

右之通あるへし動〻当家
ゑらひともひそかに見せ申へく
蓋之実大膳大夫 長政
右近大夫 良慶 門
花香三郎 貞成
右卅一ヶ条任傳之印可
訖進之努〻他見無用
てハ他へ尊や

矢筒之事

花之

矢筒之巻

夫詩経乃大叔于田以篇ニ見矢箙
とあり有虞氏より始まり周禮之
まきに矢箙とあり凡長さ二尺
六寸あれは地ハ二十六會と参も似

婦人之拵種末に二寸金銀行是文
地教と表せり楊行ハ逆不用して
時分也き婦人之かたしむす清天金ふ
令て髪作有十て文云一の青貝く
二乃青貝の間行まう合小喩織金張
紫草行色主人好み染有り腰
付と婦人之大衆主人乃性と見

金之〳〵付緒ノ結ヒ目前

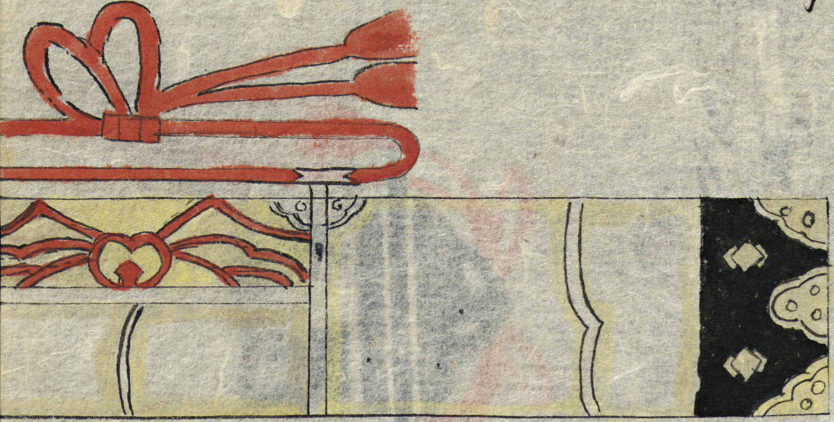
〳〵
右紐一寸見右
一つゝ付結
腰ニ寄合結

蓋乃高さ二寸七分
見合乃厚さ八分也



一〳〵底地

底ハ桐ニて厚さ壱寸五分程切て
九分程を残し付して家の紋を付る



付緒穴ハ猫ニ九分丈緒かけて
八ツうち平うち丸うちあり

筒金分ノ四金
とかくるなり

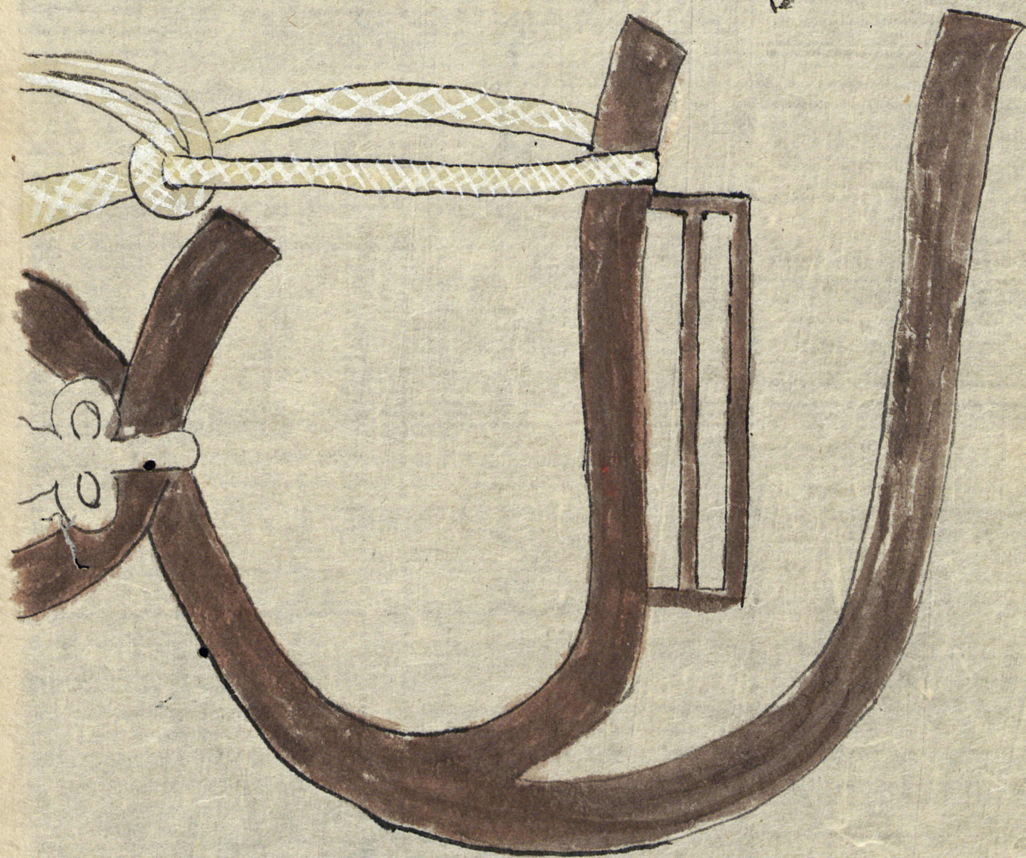
二ノ責金一の責金
より七寸置てよし
是七曜と表なり

一の責金と筒金

腹之巻

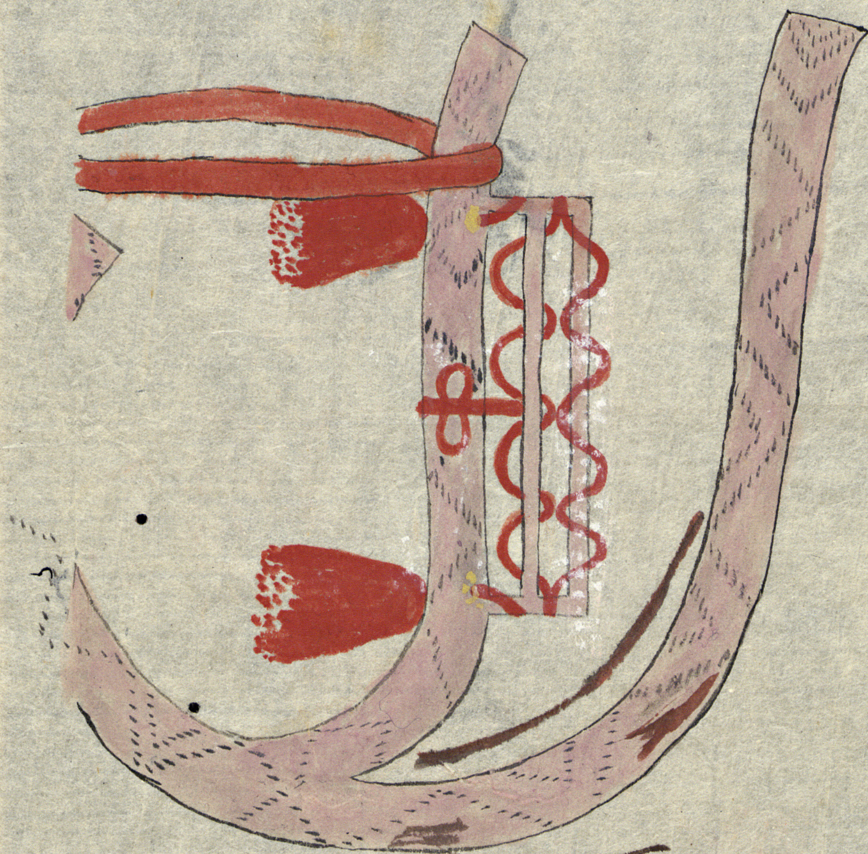
十文

朱墨合



巌之巻

十五



墨朱

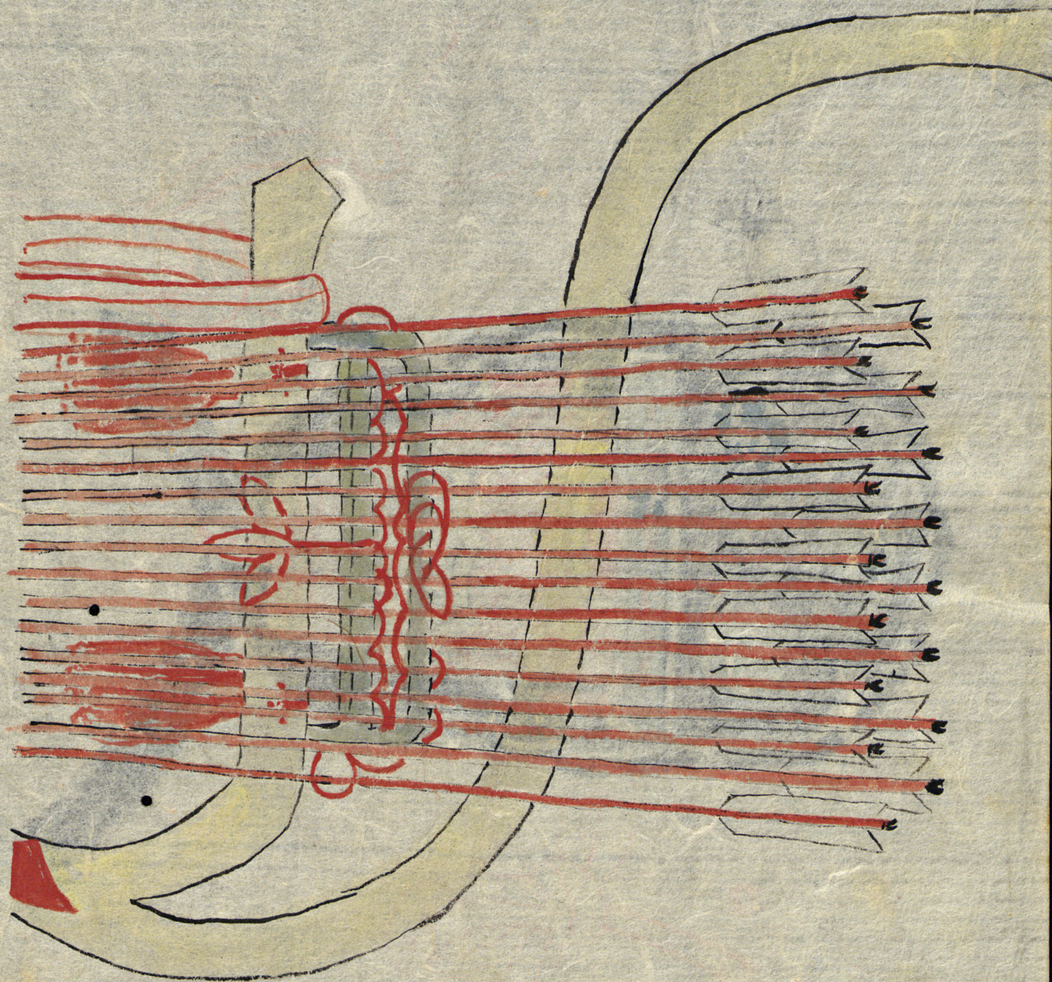









白





右装服之圖水戸黄門頼房
御執行有度旨之達
叡覧了時勧修寺儀之奉
勅給則頼房卿御傳受薩守

志度殿之写是也三度頼房公
御行幸之節御前神文之上有御
免之任之唯授一人相傳候由
熊野牛王歃血代々之法也
尤可被守之旨者也



H+K 2 GretagMacbeth™ ColorChecker Color Rendition Chart 15.01.2002